

永代祠堂経とは

永代祠堂経とは、寺院において永代供養経につかれた方のご命日に、永代まで読経するということです。多くの寺院では毎年春秋二季に期日を定めて、特別永代経の法会を行っています。これを永代祠堂経といい、本誓寺では下記の期日に永代祠堂経を勤修しております。

○3月 21日より31日まで

○4月 11日より20日まで

いずれも午後一時半より

○6月 1日より10日まで

こうしてすべての方のご命日のお経が31日間あがります。

※例えば、1日のご命日の方のお経は6月1日にあがります。

よく納骨を終えて永代供養経につかれた方が「これで肩の荷がおりました」といわれることがあります。区切りをつけるという意味ではよろしいのですが、永代供養経につくということは、終わりではなく始まりなのです。

供養ということは、私たち残された者から亡くなられた方への一方的なはたらきだけでなく、同時に亡くなられた方から私たちへの「まことの教えに出会ってください」という促しのはたらきです。供養とは、決して亡くなられた方のためにだけ読経するということではなく、そのことをご縁として、亡くなられた方に有縁の人々が聞法の機会をいただくことがあってはじめて、亡くなられた方の供養ということがなりたちます。

現代において日々の生活に追われる私たちですが、本誓寺の門徒として、先祖の永代供養経につかれている方は、そのご命日にお参りくださって、日常の執着を手放し、両手を合わせ、亡き人を追慕、供養することを通して、自らの生きざまを、仏さまの教えを聞くことによって、問いなおしていくご縁としていただきたいと心から願っております。

本誓寺では、3月下旬、4月中旬、6月上旬と10日間ずつにわけて、永代祠堂経を勤修しております。各10日間のうち2日間、法話がございます。命日にお参りできない方は、各10日間の命日にあたる日がございましたら、その間の法話のある日にお参りいただきたいと存じます。